

第 2 回 IUCN-J 生物多様性国家戦略勉強会 プログラム

「生物多様性国家戦略とローカルアクション」～イギリスの試み・日本の試み」

講師 原 慶太郎（東京情報大学総合情報学部教授・NACS-J 理事）

生物多様性保全は、「日本全体の」重要課題として、政府、地方自治体、NGO、地域住民各層が、課題を共有し、行動を起こすことが大切です。第 3 次生物多様性国家戦略では「政府だけの」戦略にとどまらず、多くのセクターが関与する戦略となるかどうか重要な評価軸の 1 つとなります。

今回は、地方分権の進んだイギリスの生物多様性多様性国家戦略の動きや、その国家戦略と地域の自然保護活動の関係、生物多様性情報を共有する NGO の試みを概観した後、イギリスと日本の取り組みについて、自然環境 GIS（地理情報システム）の専門家である東京情報大学の原慶太郎先生から事例を発表していただきます。

主催：IUCN-J 生物多様性国家戦略シンポジウム実行委員会

協力：株式会社内田洋行（会場提供）

期日：2006 年 10 月 19 日 18：30～20：30

プログラム

- 1．イギリスの生物多様性アクションプラン（IUCN-J 事務局・NACS-J 道家哲平）
- 2．生物多様性と情報 - イギリスと日本の取り組み - 原慶太郎（東京情報大学）
 - ・イギリスのケント州ワイダウンの事例
 - ・丹沢大山総合調査 自然環境情報ステーション e-Tanzawa
- 3．質疑応答

配布資料

資料 1 イギリスの生物多様性アクションプラン レジюме

資料 2 生物多様性保全のための情報基盤

付属資料 丹沢大山総合調査 アトラス丹沢 第二集

この勉強会は、財団法人自然保護助成基金の支援を受けて開催されます。